

永島 知子(ながしまともこ)先生のプロフィール

1996年 大阪市立大学医学部卒業、同大学附属病院産科婦人科学教室勤務。
1999年 湯液を李康彦先生に師事、構造医学を金井聖徳先生に師事。
2000年 大阪府中央区にながしまクリニック開設、現在に至る。

専門は東洋医学全般(湯液、操体)。

◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

幼少から古建築マニアの父の影響で東洋哲学を学ぶと決めていた変わり者です。
九大文学部中国哲学科では、開学以来6人目の女子学生。

10年ほど在籍し、宋明学から道教の養生術、中医学理論に触れ、
漢方をやるために医学部に入りなおしました。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

入局先は産婦人科でしたので、あえて言えば、月経がらみの諸症状から
周産期、更年期、老年期と、女性には特に有効性が高く、
女性の苦情全般に細やかに対応出来る手段ですね。

例えば、子宮内膜症や子宮筋腫の西洋医学的治療法では
女性ホルモンをいじり、不調を訴える人も多いですが、
漢方単独の方が無理なく対応出来ることは少なくありません。



◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

街中の小さな診療所ですので、漢方専門で特殊性を出しています。
西洋医学的手法は他医に求められるため、西洋薬はまず出しておりません。
口コミでほとんどの方が煎薬を希望され、エキス剤の処方は僅かです。

他医で出されている西洋薬がある場合も、必要最低限に減っていかれます。
煎薬を用いるようになって、当初考えていたよりも、漢方だけで対応出来る範囲は、
意外に広いのでは、と実感しています。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

対症療法的な西洋薬が長年第一選択であったために、却って病状が拗れていることが
少なくありません。西洋薬でどうにもならないから、漢方でも試そう、という順番では
漢方的にも時間がかかります。

漢方が得意な分野は漢方が第一選択である治療が普及してほしい。
健康保険は破綻しているでしょうが、行政面で、より多くの人に流布する形態について、
貴会に期待しております。

メーカー側も安定した生薬供給に良識をもって努力してほしい。
異常気象や新種のウイルス疾患も増え、温病学的な発想が要求される機会が増えるはず。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

自分自身と家族が貴重な実験台ですので毎日、色々と飲んでみて実感しています。
病院勤務時代の過労やアトピー、長年の吹き出物、常習便秘、気管支炎、インフルエンザ、
醜く腫れた麦粒腫や歯肉炎まで、全部漢方だけで対応出来ました。

第一、ごく体力のない普通の女性が
これだけ元気に仕事がこなせるのが漢方の威力です。

特に、煎薬の指導を徹底的にして下さった李康彦先生には
感謝しています。



◆一般の方向けに一言お願いします

苦い薬は飲めない程度にしか困ってない人には向かない手法です。
素直に求めがある人ほど何故か不思議とよく効きます。

生薬の癒す部分は肉体を越えて深いです。
生薬が養生の機会を与えてくれ、ご自身の人生が彩り、魂から寛がれますよう。
ご関心があれば是非、実際に体感してみてください。

こういう効き方は西洋薬にはないと思います。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

「上根の人、善無く悪なき心体を悟り得、無なる処より根基を立つ。
意と格物と皆、無より生ず、一了百当(一度そう分れば、それで万事好し)、
本体に即して便ちこれ工夫。易簡、直截、更に剰欠なし」 王龍溪



注意:先生へのインタビューは、当会が2003年10月に行った内容です。